

2008年(平成20年)9月14日(日曜日)

中村選手 4年後へ疾走

五輪マラソン

北京五輪女子マラソンで日本人で唯一完走、13位の成績を残した中村友梨香選手(天満屋)が岡山市のさん太ホールで講演し、「今回をスタートと思い、4年後にもう一度出場する」とロンドン五輪に向けての意欲をのぞかせ、新たな挑戦への決意を述べた。

「おかやま適塾」主催の「競技部の武富豊監督と登壇講演会」で、天満屋女子陸上「場」。「北京オリンピックを

岡山で講演「北京スタートだと思おう」



北京オリンピックを振り返る中村選手(さん太ホールで)

全力疾走して思うこと」と題し、80人を前にレースを振り返った。

中村選手は、当日午前7時30分のスタートに備えて同2時に起きたことや、沿道から日本語で「中村」と聞こえ、「応援されているのが分かり、力になった」と紹介。しかし、集団から前に出ることが出来なかったレース展開に、「世界の強豪選手を相手に精神面で負け、力を出し切れなかった」と悔やんだ。

武富監督は、優勝した下メスク選手(ルーマニア)でもタイムが2時間26分44秒と、展開が遅かったと指摘。「タイムより勝負」と、集

団から前に抜け出す勇気が勝敗を分けたと分析した。

武富監督は「潜在能力は高い」と今後に期待。中村選手は、トップレベルの選手たちを目の当たりにして、筋肉の付き方など体格が違うことを実感したといい、「課題はたくさんある。少しずつでも強くなりた」と述べ、「落ち込みやすく、弱気な面を克服したい」と心身両面での成長を誓った。